

2023. 5. 21 (日) 使徒8:4~13

- 8:4 散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。
- 8:5 ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。
- 8:6 群衆はピリポの話聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。
- 8:7 汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。
- 8:8 その町には、大きな喜びがあった。
- 8:9 ところで、以前からその町にはシモンという名の人があった。彼は魔術を行ってサマリアの人々を驚かせ、自分は偉大な者だと話していた。
- 8:10 小さい者から大きい者まで、すべての人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、『大能』と呼ばれる、神の力だ」と言っていた。
- 8:11 人々が彼に関心を抱いていたのは、長い間その魔術に驚かされていたからであった。
- 8:12 しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。
- 8:13 シモン自身も信じてバプテスマを受けると、いつもピリポにつき従って、しるしと大いなる奇跡が行われるのを見ては驚いていた。

#### <説教>

ステパノの殉教をきっかけとして、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起きました。〈使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされ〉(8:1)ることになりました。なお、ユダヤ地方の中心地がエルサレムですから、エルサレムの町を出ればそこがユダヤです。そしてそのユダヤのすぐ北隣がサマリア地方です。

そんなユダヤとサマリアの諸地方に〈散らされた人たちは、みことばの福音を宣べ伝えながら巡り歩いた〉(4)のです。〈みことばの福音〉とはつまり〈キリスト〉(5)のことであり、〈神の国とイエス・キリストの名について〉(12)です。このようにして、「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」(1:8)と言われたイエスの御意思が実現していくことになりました。激しい迫害は確かにそれをする人間の反キリストの悪行ですし、受ける側の人間としては嬉しくないことです。しかし、イエスはそのことをも用いて、ご自分のご計画を実現しても行かれます。〈散らされた人たちは〉使徒たちから聞いたイエスのみことばを思い起こしたのでしょう。それは聖霊の力によることでした。イエスが弟子たちに話したすべてのことを思い起こさせてくださるのが聖霊だとイエスは言われました(ヨハネ14:26)。

なお、4節には「他方、散らされた人たちは…」(新改訳第3版)、「さて、散らされて行ったひとたちは…」(口語訳)とあり、新改訳2017には訳されていない「他方」とか「さて」と訳された言葉があります。これは「それで、それ故」という意味です。つまり、〈散らされた人たちは〉は激しい迫害の故に人を恐れて隠れたり黙ってしまったのではなく、むしろ反対に「それだからこそ」イエスの約束が実現しつつあると信じて〈みことばの福音

を伝えながら巡り歩いた」ということです。〈散らされ〉で行った所で、そこそは自分がイエスの証人として生き、〈みことばの福音を伝え〉、〈人々にキリストを宣べ伝え〉(5)、〈神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝え〉(12)る場所だと思い知らされたのです。こうして、激しい迫害の結果は、迫害した人々が目差したことは全く逆になりました。それはもちろんそこでも〈主の御手が彼らとともにあった〉(11:21)からでした。

そのような人たちの一人に〈ピリポ〉がいました(8:4)。ピリポはあの、ギリシア語を使うユダヤ人たちのやもめたちへの毎日の配給のために選ばれた、〈御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たち〉七人の中の一人でした(6:1-6)。そのピリポが〈サマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝え〉ました。ヨハネの福音書4章には、ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったにもかかわらず、イエスがかつてサマリア地方のスカルという町で一人の女性とお話になったことが記されています。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」と言ったその女性に対して、イエスは「あなたと話しているこのわたしがそれです。」とお答えになりました。その女性の証言によってその町の多くのサマリア人がイエスを信じ、イエスはそこに二日間滞在され、イエスのことばによってさらに多くの人々がイエスを「世の救い主」だと信じたことが記されています。一方で、ルカの福音書9章には、御顔をエルサレムに向けて進んでおられたイエスをサマリアの村人は受け入れなかったことも記されています。サマリア人は「モーセ五書」だけを聖典として受け入れており、またエルサレムに対抗して地元のゲリジム山で神を礼拝していました。そんなふうには、エルサレムを中心としたユダヤ人とは仲が悪かったサマリア人、またイエスとの間で色々あったサマリア人でしたが、あの女性のようにサマリア人も神の約束のメシア、キリストを待ち望む民でした。ピリポが行ったサマリアの町の人々の中に、かつてイエスを信じた、または受け入れなかった人々がいたかどうかはわかりません。しかし、受け入れられ拒絶であれ、かつてイエスと何らかの関わりを持ったということはサマリア人にとって決して無駄ではなかったと思います。

神の約束のキリストの到来を待ち望んでいたサマリア人たちは、ピリポが語った言葉と彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、すなわち〈キリスト〉のことに、そろって関心を抱くようになりました(6)。〈汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。その町には、大きな喜びがあった。〉(7-8)。これがピリポが行っていたしるしとその結果でした。もちろんそのしるしも結果も、聖霊によってピリポとともにおられるイエスの力によることでした。「あなたがたサマリアの町の人々が待ち望んでいたキリストはついに到来したのだ。私が宣べ伝えているナザレのイエスこそがそのキリストである。そのイエス・キリストが今ここで生きてみわざをなしておられるのだ。そのイエスによって神の国すなわち神の御支配があなたがたのところに来たのだ。この方以外には、だれによっても救いはない。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間には与えられていないのだ。」サマリアの町の人々にピリポはこう宣べ伝えたのです。

ピリポが宣べ伝えたイエスは、汚れた霊につかれた多くの人たちからその霊を追い出しただけでなく、そのサマリアの町の〈小さい者から大きい者まで、すべての人々〉(9)を、〈シモンという名の人〉の〈魔術〉による悪魔の〈長い間〉の支配、束縛からも解放

したのです(9-12)。イエスがピリポの口を通してサマリアの町の人々に、イエスをキリストと信じて〈神の国〉すなわち神の御支配の中に入るようにお招きになりました。『大能』と呼ばれる、神の力)は魔術師シモンの名にではなく、ご自身〈イエス・キリストの名)にあることをピリポの言葉とわざを通して明らかにお示しになりました。

ピリポはサマリアの人々に、ひたすら〈みことばの福音を)、〈キリストを)、〈神の国とイエス・キリストの名)を宣べ伝え、キリストを証しする良きわざを行い、人々がキリストに〈関心を抱く)ようにしました。それは、シモンが〈魔術を行ってサマリアの人々を驚かせ、自分は偉大な者だと話していた)、ような自己顕示、自己宣伝、自分に〈関心を抱く)ようにしていた姿勢とは全く違いました。

ピリポが宣べ伝えた神の国とイエス・キリストの名によって、その力によってサマリアの人々はイエスを〈信じて、男も女もバプテスマを受け)ました。さらには、なんと〈シモン自身も信じてバプテスマを受け)るに至りました(13)。確かにその「化けの皮」が剥げることにはなりますが。

ここに集う一人一人が、遣わされて行く場で、イエス・キリストの名の故の困難に合い、また迫害まで受けるとしても、イエス・キリストにより一層信頼し、困難を耐え忍び、イエス・キリストの力によって守られ助けられますように。キリストによって信仰を強めていただき、怯(ひる)むことなくキリストに従い、言葉と行いをもって人々にキリストを証しし、宣べ伝えて行きますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。